

# 英國公文書が証明した 日本のユダヤ人救出

岡部伸  
産経新聞論説委員  
前ロンドン支局長

樋口季一郎は「ユダヤ人にとって最大の理解者で友人だった」――

疑わしい英雄？

英國立公文書館所蔵の機密文書から、次のようなことが判明した。

第二次大戦中、日本は枢軸同盟を結んだナチス・ドイツからのユダヤ人を絶滅せよとの再三の要求を拒絶

し、終戦まで日本国内や日本が統治していた東南アジアなどに逃れたユダヤ人を保護するように外務省から在外公館に指示していたというのだ。

『日章旗のもとでユダヤ人はいかに生き延びたか』(勉誠出版)の著者で、日本のユダヤ政策に詳しいイスラエルのヘブライ大学名誉教授、メロン・

メツツイー二氏は、「世界で反ユダヤ主義が広がり、歐州のユダヤ人がナチスの手で絶滅しようとしていたとき、日本は難民を保護し、日本の支配地域に身を置いた四万人以上のユダヤ人が生き延びたことはあまり知られていない。日本が一九三八年に始めたユダヤ人保護政策が米英開戦後も継続されたことを裏付けている」と指摘する。

ところが、一部で日本のユダヤ人

保護政策にケチをつける言論が出てきた。イスラエルのハイファ大学教授のローテム・コネル氏とカナダ人

歴史学者、ジョシュア・フォーゲル

氏は、日本外国特派員協会の機関誌

「ナンバー1新聞」に寄稿し、「戦時中の日本は、支配地域で生き延びよう

としたり、避難所を見つけようとし

たりするユダヤ人を援助せず、通行

を妨げ、強制送還し、最終的に大戦

末期の二年間に、ユダヤ人との理由

で大部分を拘束した」として、「日本

の修正主義者は、難民を救った樋口

季一郎中将を英雄と呼んでいるが、

彼らの希薄な説明は、ユダヤ人の苦

しみを故意に悪用している」と、樋口

季一郎の功績も証拠不足で「疑わしい英雄」と否定している。

樋口季一郎に関しては本誌で「マン

ガ 北海道を守った男」(作・東雲く

によし)が連載中だが、彼らの言説は正当性を欠いている。

## ユダヤ人保護を国策に

ドイツでヒトラーが政権を掌握した一九三三年ごろに始まつた弾圧かなら逃れるユダヤ難民が日本軍の占領した満洲(中国東北部)などに押し寄せた。三八年三月、ナチス・ドイツがオーストリアを併合すると、迫害は厳しさを増し、難民が急増。米

エビアン会議の約四ヵ月後、ドイツでユダヤ教会焼き打ちの狼煙が上がり、三八年十一月九日、いわゆる「水晶の夜」と呼ばれる事件が起き、ユダヤ人迫害が本格化する。同年十月、ナチスは、ドイツ国内に居住するユダヤ人のパスポートに「ユダヤ人」を意味する単語の頭文字「J」のスタンプを押すことを強制した。日本はドイツとは査証免除協定を結んだが、具体策を打ち出せなかつた。

本国の呼びかけで同年七月、フランスのエビアンで欧米三十二カ国が協議したが、具体的策を打ち出せなかつた。米英加豪をはじめ、パレスチナにまで反ユダヤ主義が広がり、入国を制限した。難民のドイツ脱出がピークを迎えた三九年には、ドイツ系ユダヤ難民の証明を必要とし、その発給を求